

マルシェ・デュ・フィルム、2026年「カントリー・オブ・オナー」日本のプログラム全容を発表

経済産業省（METI）および日本貿易振興機構（ジェトロ）の支援のもと、日本は意欲的なプログラムを携えてカンヌに臨む。急速な成長を見せる映画・コンテンツ・知的財産（IP）に焦点を当て、共同製作を見据えたミーティング、厳選された作品の上映（スクリーニング）およびショーケース、戦略的な業界交流などを展開する。

パリ、2026年5月6日

映画業界における世界最大の映画マーケット「**Marché du Film**（マルシェ・デュ・フィルム）」は、本年の「**Country of Honour**（カントリー・オブ・オナー：名誉国）」に選出された日本に関するプログラムを発表した。マルシェ・デュ・フィルムは、第79回カンヌ国際映画祭の会期中、**2026年5月12日から5月20日**にかけて開催される。

Cannes2026 - Marché du Film Country of Honour 実行委員会が中心となり、**経済産業省（METI）、日本貿易振興機構（ジェトロ）**と連携して実施される本プログラムは、映画・コンテンツ・知的財産（IP）の各分野で世界における存在感を増す日本の現状、そして国際協業および共同製作の重要なパートナーとしての役割の拡大を反映する内容となっている。

カントリー・オブ・オナーへの選出の背景には、日本からの業界関係者の参加が前年と比較して約40%増加するなどの動きがあり、日本のクリエイティブ・エコシステムをめぐる国際的な機運の高まりを示している。

カントリー・オブ・オナーとして、日本は国際的評価の高いクラシック映画から、IPを軸に急速に進化を続けるコンテンツの現在まで、その多様性を幅広く紹介する包括的なプログラムを展開する。

本年の日本のカントリー・オブ・オナーの中心的なプログラムとして、以下3つの新たな主要企画が行われる。

- **Japan IP Market**（5月15日〔金〕～17日〔日〕）：**TIFFCOM**（東京国際映画祭併設コンテンツマーケット）との共催による3日間の独自企画で、国際的な映像化に向けた展開を見据え、今最も注目される日本のIPを取り上げる。映画、マンガ、グラフィック・ノベル原作が対象となる。双胴船「アート・エクスプローラ号」を会場に、ピッチセッションと1 on 1のビジネスミーティングを中心に、キーノートスピーチやプレゼンテーションも実施する。参加企業は、株式会社アミューズクリエイティブスタジオ、株式会社KADOKAWA、株式会社日本文芸社、日本アニメーション株式会社、松竹株式会社、株式会社主婦と生活社、東映株式会社の7社。
- **Japan Screening Day**（5月16日〔土〕）：過去にカンヌ国際映画祭に出品された日本映画を代表する4作品を連続で上映する、マーケット参加者にとって日本映画の名作を（再）発見する貴重な機会。上映作品は、今村昌平監督『黒い雨』（1989年、コンペティション部門）、市川崑監督『おとうと』（1961年、コンペティション部門）、今村昌平監督『うなぎ』（1997年、パルム・ドール受賞）、小林正樹監督『怪談』（1965年、審査員特別賞受賞）。



MARCHÉ DU FILM
FESTIVAL DE CANNES



(仮訳)

プレスリリース
即時発表

- **France-Japan Co-Production Meetings** (日仏共同製作ミーティング、5月14日 [木]) : マルシェ・デュ・フィルム「**Co-Production Days** (共同製作デー)」プログラムの一環として、フランス国立映画映像センター (CNC) との連携により開催される。本ミーティングでは、厳選された日本人プロデューサー11名とフランス人プロデューサーをマッチングした個別ミーティングを行い、日仏間における対話と新たな共同製作機会の創出を目指す。

加えて、日本はマルシェ・デュ・フィルムの複数の主要プログラムにおいても取り上げられる。

- **Cannes Animation** (カンヌ・アニメーション) : 日本のアニメーションが持つ世界的な影響力に焦点を当て、日本アニメの国際的成功をテーマとするパネルとプレゼンテーションを実施。また、**Anecy Animation Showcase** (アヌシー・アニメーション・ショーケース、5月17日 [日]) には、日本から平尾隆之監督『WASTED CHEF』、および川村真司監督・小川育監督『HIDARI』の2作品が紹介される予定。
- **Producers Network** (プロデューサーズ・ネットワーク) : 新進気鋭の日本人のプロデューサー5名とその最新企画を紹介するブレックファースト・ミーティング (5月17日 [日]) を開催し、新たなネットワーキングと国際共同製作の機会創出を促進する。
- **Goes to Cannes** (ゴーズ・トゥ・カンヌ) : 東京国際映画祭 (TIFF) と共同で、日本の製作中 (ワーク・イン・プログレス) の長編作品5本を紹介する。本プログラムは、各監督とセールスエージェント、配給会社、映画祭プログラマーとのマッチングの機会を提供するプラットフォームとなる。
- **Spotlight Asia** (スポットライト・アジア) : 文化庁および UNIJAPAN の支援のもと、映像産業振興機構 (VIPO) が濱口竜介監督の最新作『急に具合が悪くなる (英題: All of a Sudden)』のケーススタディを行う。同作は、本年のカンヌ国際映画祭コンペティション部門でのワールドプレミア上映が予定されている。

マルシェのその他のプログラムでも、日本の才能にスポットライトが当てられる。

- 平柳敦子監督 (『オー・ルーシー!』(2017年・批評家週間) で知られる脚本家・監督) : 民間投資家とハイエンドな映画プロジェクトを結びつけるマルシェ・デュ・フィルムの代表的企画である **Investors Circle** にて、同氏の新作長編映画企画を発表する。
- 石橋英子氏 (『ドライブ・マイ・カー』『悪は存在しない』で知られる受賞歴のある作曲家) : 本年の **Spot the Composer** プログラムのメインパネル「**Composing Without Borders: Film Music on the International Stage** (国境なき作曲—国際舞台における映画音楽)」において、キースピーカーとして登壇。
- 三池崇史監督 (『オーディション』『殺し屋1』で知られる日本を代表する多作な映画監督の一人) : シッチェス・カタルーニャ国際ファンタスティック映画祭との共催による本年の **Fantastic 7** (ワーク・イン・プログレス作品のショーケース) にて、本年の「**Fantastic Godfather**」として迎えらる。

日本をテーマとした一連のカンファレンスには、サンフォード・パニッチ氏 (ソニー・ピクチャーズ・モーショントピックス・グループ社長) や、藤村哲也 (本名: 哲哉) 氏 (『ONE PIECE』実写シリーズエグゼクティブ・プロデューサー、フィロソフィア創業者) など、業界のキーパーソンが一堂に会する。これらのセッションは、5月14日から15日にかけてメインステージ (14日) およびパレステージ (15日) で開催され、日本のIPが世界に与える影響、日本における制作機会、そして国際共同製作のための戦略について深い洞察を交えた議論が期待される。



MARCHÉ DU FILM
FESTIVAL DE CANNES



JAPAN
COUNTRY OF HONOUR

(仮訳)

プレスリリース
即時発表

さらに、K2 Pictures、CinemaLeap、ジャパン・フィルムコミッション (AFCI=国際映画委員会協会との連携)、EVISION、Crunchyrollなどの関連機関による日本関連セッションも実施される。

マルシェ・デュ・フィルムにおける日本の存在感は、文化庁・UNIJAPAN 主導で Village International に設置される **ジャパン・パビリオン** の継続出展、マルシェ会場内における **ジェトロ** ブースや文化庁・UNIJAPAN 主導の **ジャパンプース** (日本企業 12 社が出展) の設置、さらに会場内各所において、日本企業 18 社の出展により、マーケット全体を通じてさらなる高まりを見せている。

マルシェ・デュ・フィルムの枠を超えて、カンヌ国際映画祭の公式セレクションにおいても、日本の存在感は際立っており、現代日本映画の多様性と創造力を体現する 5 作品が選出されている。パルム・ドールを争うコンペティション部門には、濱口竜介監督『**急に具合が悪くなる (英題: All of a Sudden)**』、是枝裕和監督『**箱の中の羊 (英題: Sheep in the Box)**』、深田晃司監督『**ナギダイアリー (英題: Nagi Notes)**』の 3 作品。「ある視点」部門には、岨手由貴子監督『**すべて真夜中の恋人たち (英題: All the Lovers in the Night)**』が、カンヌ・プレミア部門には黒沢清監督『**黒牢城 (英題: Kokurojo (The Samurai and the Prisoner))**』が選ばれた。

また、「カンヌ・クラシックス」部門では、黒澤明監督『**姿三四郎 (英題: Sugata Sanshiro)**』(1943 年) のデジタル 4K リマスター版の特別上映が行われる。上映時には、小松士恩氏 (TOHO Global 株式会社) およびティエリー・フレモー氏 (カンヌ国際映画祭総代表) が登壇する。

カントリー・オブ・オナーとして、日本はマルシェ・デュ・フィルムの盛大な幕開けを祝う **オープニング・ナイト** (5 月 13 日 [水]) を共催する。本イベントは、カンヌ国際映画祭およびマルシェ・デュ・フィルムの公式ビーチ会場である **Plage des Palmes** (プラージュ・デ・パルム) にて行われる。

###

「日本・カントリー・オブ・オナー」公式ウェブサイト (プログラム詳細・イベントスケジュール) :

→ www.marchedufilm.com/japan

報道関係問合せ先 :

→ Maya Leyva, mdf-press@festival-cannes.fr

マルシェ・デュ・フィルムについて

マルシェ・デュ・フィルムは、カンヌ国際映画祭のビジネス拠点として機能する、世界最大の国際映画マーケット。世界各国から 15,000 人以上の映画業界関係者 (セールスエージェント、プロデューサー、配給会社、映画祭プログラマー、映画関連機関など) が集う。毎年 1,500 本を超えるマーケット向け特別上映 (スクリーニング)、4,000 件以上の開発中プロジェクト、250 を超える業界イベントが開催される。世界中の映画コミュニティがつながり、ビジネスを加速させ、新たなコラボレーションを生み出し、業界を形づくる最新のトレンドやイノベーションを探求するための、活気あるプラットフォームを提供している。

公式ウェブページ : www.marchedufilm.com

「日本・2026 年カントリー・オブ・オナー」について

日本は、マルシェ・デュ・フィルム 2026 の「カントリー・オブ・オナー」に選出された。これは、世界の映画産業に顕著な貢献を果たした国を取り上げ、国際交流と協業を促進するために創設された取り組み。日本は、カンヌにおいて、新企画「Japan IP Market」をはじめ、Japan Screening Day、業界を代表するキーパーソンが登壇するカンファレンスなどを通じて、映画、アニメーション、コンテンツ産業の多様性と国際的な広がりを紹介する特別プログラムを実施する。また、日本の業界関係者や企業は、アニメーションやジャンル映画に重点を置いたマルシェ・デュ・フィルムの主要プログラムにも参加する。これらの取り組みは、Cannes2026 – Marché



MARCHÉ DU FILM
FESTIVAL DE CANNES



JAPAN
COUNTRY OF HONOUR

(仮訳)

プレスリリース
即時発表

du Film Country of Honour を中心に、経済産業省 (METI) および日本貿易振興機構 (ジェトロ) との連携により実現している。

公式ウェブサイト : www.marchedufilm.com/japan